

令和7年度氷見市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和8年2月25日(水) 午後1時30分から午後2時55分まで
- 2 場 所 氷見市役所 201災害対策室
- 3 出席者 菊地正寛市長、鎌仲徹也政策参与、有島洋之教育長、湖東政俊職務代理者、圓山留美委員、佐原孝信委員、菊池響委員、萩原教育次長、西参事、尾山学校教育課長、小谷文化振興課長(兼博物館長、図書館長)、長谷川スポーツ振興課長、森谷教育総合センター所長、坂下学校給食センター所長、藪下学校教育課長補佐、砂山文化振興課長補佐、田邊スポーツ振興課長補佐

4 会議内容

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ 菊地 市長

(3) 協議事項の説明

- ・令和7年度の取組と成果及び今後の取組について

資料「令和7年度の取組と成果及び今後の取組について」に基づき、各所属長が説明した。

①「令和6年能登半島地震からの復旧復興について」を学校教育課長、文化振興課長、スポーツ振興課長が、②「学校給食費の支援について」、③「学校の長寿命化について」、④「中学校部活動の地域展開について」、⑤「氷見の教育魅力化について」、⑥「第4期氷見市教育振興基本計画の策定について」、⑦「市立学校の夏季休業日の見直しについて」を学校教育課長が、⑧「ICT教育の取組について」、⑨「ふるさと教育の取組について」、⑩「学力向上の取組について」、⑪「学校におけるプログラミング教育について」、⑫「外国語教育の取組について」、⑬「いじめ防止対策について」、⑭「不登校児童生徒への対応について」を教育総合センター所長が、⑮「学校における働き方改革について」を西参事が、⑯「少年補導の状況について」、⑰「芸術文化館の利用状況について」、⑱「教育文化センターの機能強化について」を文化振興課長が、⑲「図書館サービスの充実について」を図書館長が、⑳「文化財保存活用地域計画の作成について」を博物館長が、㉑「スポーツを通じた地域活性化の取組について」、㉒「ふれあいスポーツセンターの長寿命化について」、㉓「体育施設解体事業について」をスポーツ振興課長が説明した。

(4) 質疑応答

・⑥学力向上の取組について

湖東代理者： 学力向上に向けた調査・研究（学力向上推進委員会）について、「学力向上だより」等での啓発や学力確認問題の作成・配付は大変よい試みであると考えている。この取組を是非続けてほしい。そこで、少し気になる点を3点質問したい。

- ・この「学力向上だより」や確認問題は、年何回発行されているのか。
- ・学力向上推進委員会で作成した「学習の確認問題」は、氷見市の児童生徒が苦手とする面を補完するために作成されたものであると考えられるが、氷見市の児童生徒のどのような学力を向上させたいと考えて作成されたものか。
- ・毎回発行される「学習の確認問題」には、記述式問題をどのように取り入れて作成しているのか。

教育総合センター所長 「学力向上だより」は、年3回発行している。この「学力向上だより」は、各学校の授業改善に向けた取組を中心に紹介している。

「学習の確認問題」は、国語であれば漢字や文法、算数・数学では計算練習など、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることを目的に考えており、令和6年度、7年度で作成完了し、各学校に配付した。朝学習、家庭学習などで授業の確認ができ、解答が一緒につくので自分で誤りを改善することができる。さらに自己評価カードを作成し、採点結果などの記録を蓄積して、達成度を測ることができる。

「学習の確認問題」は、基礎的・基本的な知識の定着を図ることを目的に考えている。基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を発揮する記述式問題に取り組む力は、授業改善を図り、授業を通して育成することを目指している。

・その他 学校の再編等について

圓山委員： 児童数が著しく少なくなっているが学校の今後の再編等の計画はあるか。

学校教育課長： 委員ご指摘のとおり年々児童生徒数が減少している。また、本市の出生数も毎年減少傾向を続けているが、現在、学校の再編計画はない。ただし、児童生徒数が減少する中において、教育の質を守り、子供たちの成長を支えるためにどのような学校作りが望ましいか等については、来年度策定する第4期氷見市教育振興基本計画策定のなかで話し合っていきたいと考えている。

市長： なかなか難しい問題だと思うが、第4期氷見市教育振興基本計画の策定のなかで、子供ファーストでしっかり考えていきたいと思う。

・④ICT教育の取組について

佐原委員： 北部中学校校区の3つの小規模校では、ハイブリット型交流を始め数年が経過し、大きな成果を収めている。同時に、ICTを利用した他校との交流についての長所や短所、ノウハウを知る先生が市内に増えているのではないかとと思う。他の中学校校区においての、ハイブリット型交流に次ぐICT教育推進について今後の展望があれば教えていただきたい。

教育総合センター所長

ハイブリット型交流の長所は、小規模校では得難い多様な見方・考え方に触れたり、コミュニケーション力を培ったりすること、そして、中1ギャップの軽減に効果があることである。今年度、3校から聞いているところでは、考えを分かりやすく伝える力や、相手の話を聞いて質問し、確かめる力が高まったとのことである。短所としては、3校が同時に行う授業があるため、同じ教育課程を編成したり、進度を合わせたりする必要があることである。

このほかのICT教育推進については、今年度の1学期に比美乃江小学校の6年生と台湾の児童が交流した事例がある。5月にオンラインで学校紹介等を行い、6月に台湾の児童が氷見を訪れ、ふれあいスポーツセンターで対面の交流を行った。オンラインで事前に交流していたおかげで、対面での交流も充実したものになったと聞いている。

令和7年度の全国学力・学習状況調査については、1人1台端末の活用頻度に課題がみられた。スキル体系表やAIドリルの活用、令和8年度導入予定の協働的な学びをサポートする「スマイルネクスト」の活用をとおして、1人1台端末による効果的な学びに繋げていきたいと考えている。

・⑨「いじめ防止対策について」及び⑩「不登校児童生徒への対応について」

佐原委員

「いじめ防止対策」や「不登校児童生徒への支援」が非常に丁寧になされている。これからも今困っている児童生徒を支え、これから困る児童生徒を生まない取組を進めていただきたい。

教育総合センター所長

令和7年度に教育支援センター「あさひ」の教育相談員を増員していただいた。そして、校内教育支援センターを令和7年度の比美乃江小学校に加え、令和8年度には窪小学校にも設置していただく予定である。加えて、市雇用のスクールソーシャルワーカーの各学校への派遣、各学校の教育相談週間等、今更に相談体制の充実に取り組んでいきたい。今後は、「SOSの出し方に関する教育」の推進や「SOSの見つけ方・受け止め方」の教員の研修を進めていきたいと考えている。

市長

不登校児童対策については、新聞にも載っていたと思うが、子育て支援課でも不登校やひきこもりのお子さんの居場所づくりとして、新年度よりいきいき元気館で拠点をつくることとしている。教育や福祉など、多方面からサポートしていきたいと思っている。

・⑨いじめ防止対策について

菊池委員

「学校に対する支援」の中で、「相談体制の整備」とあるが、具体的にどのような整備が行われたのか。近年における大きな体制の変化等があれば教えていただきたい。

教育総合センター所長

令和7年度は、氷見市全体の相談体制の中心である教育支援センター「あさひ」の教育相談員の増員をしたことで、不登校や学業・発達のことなどいろいろな相談を受けることができる体制を整備した。また、今年度は比美乃江小学校に校内教育支援センターを設置し、令和8年度には、窪小学校にも設置を予

定している。不登校もそうだが、未然防止の取組も行う必要があると考えている。心のエネルギーが足りなくなったときに、少し休憩できる場所があることが大切であると考えている。

今年度の学力・学習調査で児童生徒への質問に「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という問いへの肯定的な回答が、氷見市は全国や富山県の数値よりも良い結果であった。その事から、今まで取り組んできた相談体制の充実をこれからも視野を広げながら進めていきたい。

・⑫中学校部活動の地域展開について

菊池委員 スポーツ庁の「地域クラブ活動への移行に向けた実証事業」を財源に地域展開を推進していく状況であると思うが、文化部においてもその対象となるのか。文化部も同じ枠組みであるのか、または他の財源や取組の中で地域展開が進められていくのか。

学校教育課長 中学校部活動の地域展開については、現在はスポーツ庁からの財源を地域クラブの活動に活用させていただいている。氷見市では、中学校部活動の在り方検討会を年2回開催しており、その中には、中学校の校長先生、スポーツ関係の方々、芸術文化活動を行っている方々に参加いただいて、氷見市の現状や国の動向などを説明しながら、今後の進め方について協議を行っているところである。

来年度から新たに開始される国の「改革実行期間」では、スポーツ庁で「地域スポーツ振興費補助金」、文化庁で「文化芸術振興費補助金」(国1/3、県1/3、市1/3)があるので、それらを活用し、地域クラブへの展開や部活動指導員の配置等を進めていきたいと考えている。文化部については、現在の吹奏楽部への部活動指導員の配置を継続し、地域連携に資するよう取り組んでいく。

市長 部活動の地域移行もなかなか難しい問題だが、氷見市は平日の部活を維持しながら、しっかり取り組んでいきたい。今後、子供の数が減っていく中で、どうやって子供たちが部活動等を行える環境を整えていくかを検討しながら進めていきたい。

・その他 布施の白鳥について

鎌仲政策参与 自宅の横を子供たちが上庄小学校へ通学している。そのお陰で時間や季節を感じることができる。泉のお宮の近くで車を止めていると、地元ではない子供たちも挨拶をして帰っていく。相変わらず礼儀をきちんと教えていて実行していると感じる。地域住民として嬉しい。

昨日も白鳥が数多く集まっている布施の田んぼへ行ったが、離れた場所にも白鳥の鳴き声が聞こえる。旅立つ訓練をしているのではないかと思う。そして、恐らく多くの人が迷子になって白鳥たちの居場所へ辿り着けていない。そこへ行く道が分からない。結構な人が集まって楽しんでいるが、何とかならないかと思う。また、こんな場所が氷見市にあるということを周知できないか。

文化振興課長 少し分かりにくく離れた場所にある。最近は十二町潟よりも布施の方に白鳥

が多くいる。人があまり近付かないように地元の方が柵などをしている。その辺の考え方がどうなのか整理ができていないので確認させていただきたい。

・その他 氷見市芸術文化館について

鎌仲政策参与 「モーニング娘。」の公演時に1,800人以上の人が集まっていた。芸術文化館ができたときからスタンディングを利用した催しが、なかなか実現できなかった。それが昨年やっと実現し、しかも800人のキャパに2公演で1,800人を収容したとのことである。今後、非常に利用価値があるので、その辺の工夫をすると面白いと思う。

文化振興課長 「モーニング娘。」のコンサートは、昨年度11月に開催させていただいた。芸術文化館職員も大変だったとはいえ、このような利用の仕方ができると認識したようだ。今後もアイドルのコンサートなどにチャレンジしていくことになるので、芸術文化館側と相談しながら進めたいと考えている。

・その他 万葉歌碑ツアーについて

鎌仲政策参与 コロナ禍の後、万葉歌碑ツアーが無くなった。意外と面白いツアーであった。大伴家持に興味を持つ人々があれだけ氷見に来ている。お金を掛けずにロマンを楽しめる場が万葉歌碑ツアーだったと思う。祇園祭りだけではロマンが足りない。万葉歌碑ツアーと観光を掛け合わせて何か工夫できれば良いと思う。

文化振興課長 政策参与には、以前と一緒にツアーで回っていただいた時に、歌碑を周る魅力を感じていただいたのではないかと思います。親子などで万葉の歌碑を巡って、当時のことを思い描ける等のことができるよう努めていきたい。

・その他 公民館のコミュニティーセンター化について

鎌仲政策参与 私は、昨年まで自治会長をしていた。公民館活動と地域づくり協議会の活動に重複する部分があると感じる。財源の違いは分かる。公民館のコミュニティーセンター化については、氷見市では地域づくり協議会が進んでいるのだが、何とかそれを先に進めていただけると良い。

文化振興課長 公民館と地域づくり協議会との関係であるが、地域振興課が所管する地域づくり協議会と文化振興課が所管する公民館が調整しながら進めている。公民館のコミュニティーセンター化へは、市内全地区に地域づくり協議会ができてからということが、ひとつの課題となっている。地域振興課ではそれに向けて取組を進めているので、できるだけ早くその様な運営に繋げていきたい。

(5) 閉会のあいさつ 有島教育長

(6) 閉会 午後2時55分 会議終了